

家族を孤立させない 子ども・若者支援を考える

2019.11.8

話題提供「専門機関・地域・家族それぞれの役割と連携」

講師：寺出 壽美子さん（NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会理事長）

パネルディスカッション「家族ごと支え、見守るための地域連携づくり」

パネリスト：森岡 祥広さん（札幌市児童相談所相談判定二課相談三係長）
奥山 玲子さん（札幌市教育委員会児童生徒担当課セラピスト）
塩見 卓也さん（北海道警察本部少年サポートセンター被害少年支援・育成係長）
寺出 壽美子さん（NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会理事長）
司 会：松田 考（Youth+センター館長）

～地域社会をあげて子ども・若者とその家族を“見守る”には～

東京都世田谷区で長年、社会のさまざまなひずみの影響を受けた子どもたちに向き合ってきた寺出壽美子さんを講師にお迎えしました。多くの機関との連携のもとに、家庭訪問での家事・育児支援やワーカー派遣、少年事件を起こした少年の立ち直り支援などに携わってきた講師の経験から、子どもたちのSOSに向き合う大人がどうあるべきか、子どもたちのDoingよりもBeingを見守っていくまなざしの大切さを学びました。

後半のパネルディスカッションでは、札幌市児童相談所の森岡祥広さん、札幌市教育委員会の奥山玲子さん、北海道警察本部少年サポートセンターの塩見卓也さんにも登壇いただき、「しばらく見守りましょう」と言われながらも見守りの途切れが生じている現実に向き合いました。とりわけ、望まない妊娠のリスクが高い状況におかれた10代少女への支援は途切れやすいため、かかわりのスタートは0歳からではなく「マイナス1歳」から、子ども・若者たちの周りにいる専門家と「日常家」とが連携していくことを確認し合いました。

当日ご参加いただいた140名の皆さまと、今後も本テーマに係る議論を続けながら「連携」について考えていけたらと思います。

（文責：Youth+センター 松本）

